令和７年第１回姫路市議会定例会（未定稿）

令和７年３月６日（木）

〇神頭敬介議員（登壇）

姫路無所属の会、神頭敬介です。

通告により5項目の質問をいたします。

1項目めの教育環境の整備についての1点目、学校改革応援プロジェクトについて質問します。

令和7年度主要事業の概要の中の「より良い教育環境の整備」と「姫路の学びが、変わる」で説明がありましたが、昨年12月2日から本年3月1日までの期間で始まったふるさと納税を活用したクラウドファンディング、子どもたちの学校改革応援プロジェクト、「自分たちで、教室を変える」についてですが、姫路市内の小中学校が築40年以上経過し、教育予算の多くを施設の改修工事に費やす必要があり、学習環境づくりに手をつけられない現状からプロジェクトを立ち上げられたということで、ふるさと納税を利用したクラウドファンディングという新しい試みに共感するとともに、今後の人口減少に伴う税収等を考えると画期的な取組であります。

今回は、募集期間2024年12月2日から2025年3月1日の間で目標金額が300万円、寄附金の使い道は空き教室のリノベーションで、今回は2校が対象で、城北小学校の空き教室の壁面をホワイトボード化し、描いたり、貼ったり、映したり、パーティションを設置して空間を子どもたちの発想で自由にカスタマイズできるようにし、自由に表現できるプレゼンルームへの改修、また、飾磨中部中学校の空き教室を給食の時間に友達と楽しく過ごせ、マナーや食文化の継承、触れ合いと学びの場となるランチルームへの改修となっています。

2月25日のネット上の数値ですが、寄附金額が約410万円、達成率136.7％と大幅に上回っており、寄附をされる市民の関心も高いと思われます。

久保田教育長が言われる「環境が変われば気持ちが変わる」という言葉がありますが、古い教室のリノベーションとともに、子どもたちにとっても考える、学ぶ場になり、通いたくなる学校となり、そうなれば不登校やいじめが減少することも期待できるプロジェクトであります。

そこでお伺いします。

今回2校となった経緯と募集期間・金額設定はどのように決められたのでしょうか。

次に、次年度以降も継続されると思いますが、今後の募集方法や希望する学校が多い場合の選定についてお示しください。

また、寄附金の使い道は次年度からも教室のリノベーションのみに使うのでしょうか。今後の方向性について見解をお聞かせください。

2点目は、中学生スポーツ・文化芸術活動についてお尋ねします。

広報ひめじ3月号にも掲載されていますが、中学生のスポーツ、文化芸術活動の地域展開が姫カツとして、令和8年9月から休日の部活動のみ、令和10年10月以降を目途に平日、休日とも全ての部活動を完全地域展開へと推進計画され進められています。

部活動地域展開は、人口減少とともに生徒数も少なくなり、持続が困難な部活動もあり、また、教職員の働き方改革という点からも致し方ないところかもしれません。展開へ向けて、スポーツや文化芸術活動を通じて、心と身体を育む活動が継続してできる環境づくりが重要であります。

現在、スポーツでは軟式野球、水泳、体操、剣道、卓球、柔道、文化芸術活動では吹奏楽の実証事業も実施されており、生徒からは合同で活動することによる新しい発見やメリットなどよい感触を得ているようです。

ただ、実証事業のうちはよいのですが、各地域への展開となると、スポーツ・文化芸術活動の種類により、指導員や活動場所の確保、用具や費用面、地域によってはスムーズに展開できるスポーツ、文化芸術活動もあればスムーズに展開できないスポーツ、文化芸術活動もあると思います。

歴史があり、確立された中学生のスポーツ・文化芸術活動を地域へ委ねるわけでありますから、課題も多く、難しい作業であると思いますが、現状の進捗と課題について見解をお聞かせください。

2項目めは、子どもたちを守る補導活動の今後について質問します。

本市では、各中学校区にて市より委嘱を受けた地域のボランティアの方と教職員が少年補導委員として街頭補導を実施し、非行防止や健全育成のために日々活躍されており、尊敬に値するところであります。

先日、少年補導委員の方から相談があり、本年1月の理事会にて、総合教育センターの担当者の方が民間人と教職員で構成されている枠組みを変えることにより、本年3月に小学校教員、来年度に中学校教員が少年補導委員から外れるという説明をされたようですが、少年補導委員の方か

ら、「街頭補導時に、我々民間ボランティアの補導委員の注意や指導を聞かない子どもがおり、子どもたちを知り得て、顔も分かる教職員補導委員の注意や指導なら聞く子どももいるので、今後外れることを大変不安を感じる。今までどおりでは駄目なのか。」と話がありました。

教職員の働き方改革でそのように変わるのは仕方ないことかもしれませんが、今までの活動からの変化点を少年補導委員の方へ丁寧に再度説明されてはいかがでしょうか。

さて、昨今の現状を見ますと最近では夜遅くまで遊んでいたり、徘徊している子どもの姿もほとんど見なくなり、これも少年補導委員の方の街頭補導や防犯協会の方が青パトで地域巡回されていることで効果を上げていることに感謝いたします。

しかし、最近ではニュース等で頻繁に報道されていますように凶悪犯罪も増え、いつ何時、事件、事故に巻き込まれるかもしれません。また、少年補導委員の引受手がない地域もあると聞いております。

そのようなことも含め、教職員が少年補導委員から外れてしまうのなら、地域ボランティアの少年補導委員の方が安全に街頭補導などを行うために活動の内容を見直し、最大の目的である子どもたちを守るということには変わりないのですから、凶悪犯罪、事故などから子どもたちを守る上では、現状の教育委員会の所管から防犯活動及び住みよい地域づくりの推進に関することを行うという役割がある危機管理室へ組替えすることを提案します。

また、先生方が働き方改革から少年補導委員から外れるのであれば、街頭補導の人員も減り、監視の目も減るため、補うものが必要ではないでしょうか。

そのような観点から昨年も質問しましたが、子どもたちの安全、安心のために市が責任を持って通学路や主要幹線道路に見守りカメラを設置することを強く提案します。

見解をお聞かせください。

3項目めは、都市公園の今後の方針について質問します。

令和7年主要事業の中の「にぎわいあふれる交流空間の創出」でも説明がありましたが、現在、姫路市でも初めて都市公園における民間資金を活用し、整備管理を行うＰａｒｋ－ＰＦＩ事業にて、飾磨中央公園の再整備が進められていますが、姫路市初ということや大型商業施設に隣接する公園として、事業に対する市民の注目度も高くなっているのではないでしょうか。

私が所属する建設委員会にて、昨年及び本年1月にＰａｒｋ－ＰＦＩを活用し整備された久留米市の久留米中央公園、延岡市の城山公園に視察に行きました。

久留米中央公園にはカフェやトレーニングルーム、ライフスタジオを備えたＫＵＲＵＭＥＲＵが設置されていました。

また、城山公園にはカフェが設置され、延岡城跡や歴史的記念館がある公園や駐車場の整備がされており、どちらも市民が集まる憩いの場として利用者も多く、にぎわい拠点としての役割を果たしていました。

飾磨中央公園の再整備は、姫路市内で初めてのＰａｒｋ－ＰＦＩを活用した事業であります。今後の市内各地域の拠点となる公園整備のモデルとなり得る市民の皆さんの期待も大きい事業です。

昨年7月に、6事業者参加にて説明会、現地見学会等サウンディングが実施され、結果が10月に出ていますが、参加事業者より様々な意見が出て、新しい発見や改善点も見えてきたのではないかと思います。

今後、サウンディング結果を踏まえて、公園の整備工事へと進んで行きますが、目指す公園の形や整備等の方針についてお示しください。

4項目めは、観光客のおもてなしについて質問します。

姫路市内への観光客の入込数も増加傾向であります。令和5年度で941万7,000人と新型コロナ流行前の水準を上回り、その中で、外国人観光客の入込数も令和5年度で45万2,000人と前年より約35万人増えており、今後もインバウンドがまだまだ伸びてくると思われ、ますます、観光都市姫路にとってもよい傾向であります。

予算大綱説明会の「観光資源の充実と魅力発信」でもありましたが、令和7年度は大阪万博、瀬戸内国際芸術祭があり、開催を契機とした観光プロモーションにより姫路市への観光客誘致にも積極的に取り組まれるとのことでありましたので、ますます入込数も増えると予想されます。

そのような中、来姫された外国人観光客から「旅行の際は大きな鞄で日本国内を移動しているのですが、ＪＲ姫路駅周辺でコインロッカーに荷物を預けようとしたが、設置場所が分かりにくく、見つけたが大型のコインロッカーが全て使われており、預けられず、観光の際に大きな鞄を持ったままの移動となり重くて困ったので、コインロッカーを増やす等なんとかならないのか。」との話がありました。

調査したところ、現在、姫路駅構内や周辺に大型222個、

中型293個、小型272個のコインロッカーが設置されていました。ＪＲ姫路駅の北側には手荷物預かり所もありますが、新幹線や在来線で駅に降りた外国人の方は、まず荷物を預けるコインロッカーを探す方が多いと聞きました。

コインロッカー設置場所への分かりやすい誘導看板や案内を表示するなど、おもてなしの精神からも工夫が必要ではないかと思いますが、そこでお尋ねします。

姫路に来られる観光客数とコインロッカー、特に大型の数量は他都市と比べて妥当な数量なのか、見解をお聞かせください。

また、少ない場合は、コインロッカーや手荷物預かり所を増やす考えはあるのかお示しください。

5項目めは、網干地区の公共交通空白・不便地域の解消についてお尋ねします。

令和5年第4回定例会で、住民が必要とする交通手段として質問しました、姫路市網干区とたつの市御津町間を運行していた路線バスですが、昨年9月末で路線が廃止となり、姫路市からたつの市御津町へ行く際に非常に不便になり、残念な結果になりました。

さて、私の住む網干地区も高齢化が進んでおります。この地域内、特に南西部の海側の地域には、元来より公共交通が構築されておらず、自動車あるいは自転車にて山電網干駅やスーパーへの買物、医療機関の受診に行かれております。

高齢化とともに運転免許の返納で自動車の運転ができなくなったり、体力的に自転車に乗れなくなった等、交通手段がなくなり、徒歩で遠くの目的の場所に苦労されて通われている方が増えております。住民の方からは何かよい交通手段はないものかと相談が多くなってきている現状です。

現在、網干区内ではエコパークあぼしのシャトルバスが運行されていますが、経由場所を増やしていただき、週2回程度の定期の公共交通不便地域への乗入れや運行ができないものなのかという声を聞くことも多々あります。

また、他の手段として、姫路市では現在高木地区で運行されているデマンド型乗合タクシーが火曜日と金曜日に決められた時間に運行されていますが、網干地区でもデマンド型乗合タクシーの運行を望む声もあります。

本年1月に、広島県尾道市の御調町にてＡＩを利用した配車システムを導入している、みつぎ乗合タクシーの視察に行きました。

運行開始当初はタクシー会社が配車、迎えの時間等調整していたようですが、スムーズに進まず苦労されたようです。

ＡＩオンデマンドによる配車システム導入後は、ＡＩが利用者の迎えの時間を調整し1台のタクシーで効率よくスムーズに運行でき、無駄を省け、低経費で運営できるというシステムのデマンド型乗合タクシーでありました。

姫路市内の公共交通空白・不便地域でこのような新しいＡＩオンデマンド配車システムを用いたデマンド型乗合タクシーの運行も取り入れる余地はあると思います。

公共交通不便地帯の網干南西地区にて、従来のデマンド型乗合タクシーまたはＡＩオンデマンド配車システムを利用したデマンド型乗合タクシーの実証実験を行っていただき、導入できるかの可否を検討し、公共交通空白・不便地域の解消を目指していただきたいのですが、当局の見解をお聞かせください。

以上で、私の1問目を終わります。

○宮下和也議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長（登壇）

私からは、1項目め及び2項目めのうち教育委員会事務局所管部分についてお答えいたします。

まず、1項目めの1点目でございますが、教育長が様々な学校を訪問し、校長等と話をする中で、「こんな空間が欲しい。」というアイデアを持っている学校がございました。

教育委員会として初めての取組であることから、今年度はモデル事業として小中学校各1校を選定いたしました。

募集期間につきましては、今回のプロジェクトで利用しておりますふるさとチョイスのガバメントクラウドファンディングの仕様におきまして最大90日と設定されていることから、最大の期間となるように設定いたしました。

募集金額につきましては、今後も継続して実施することを想定する中で、ある程度速やかに着手・実行できる金額として、1校当たり150万円と設定いたしました。

来年度は、市立学校から広くアイデアを募集する予定でございます。現時点で具体的な審査基準は定めておりませんが、子どもたちの思いを大切にしつつ、皆様から応援したいと思ってもらえるようなアイデアを選びたいと考えております。

また、アイデアの実現可能性や維持管理の負担の程度な

どの観点も必要ではないかと考えております。

次に２点目でございますが、姫路市中学生スポーツ・文化芸術活動推進計画を基に、現在、７つの実証事業を行い、持続可能な体制づくりに向けて検証を重ねております。

また、姫カツ説明動画やテレビ放送、広報ひめじへの掲載などによる積極的な情報発信や意見募集を行い、広く理解と協力を得られるよう取り組んでおります。

課題といたしましては、指導者の質と量の確保、また、会費や送迎等が挙げられ、その解決には教育委員会だけではなく市長部局や関係団体と連携し、持続可能な運営体制を構築することが必須であると考えております。

次に、２項目めの補導活動についてでございますが、少年補導委員の皆様には、日頃からボランティアに近い状態で補導活動をしていただいていることに感謝しております。また、皆様の温かい声かけや見守りの目が、子どもたちの健全育成に大切であると認識しております。

一方、社会情勢の変化に伴い、青少年の生活様式や行動様態も変化していることが、補導活動での声かけの回数や対象者が減少していることからも明らかになっております。

また、各校区におきましては、少年補導委員の成り手不足の問題もあると聞いており、補導の在り方を見直さなければならない状況が生じております。

教職員については、少年補導委員としての定期的な巡回補導だけでなく、生徒指導上の問題が発生した際には本来業務としての見回り等を行うこともございます。

教職員の働き方を見直す中で、令和６年度末をもって小学校教員の少年補導委員の委嘱を解くこととし、少年補導委員会理事会にて説明いたしましたが、十分にその意図が伝わっていない面もあり、誤解や不安を与えているとご指摘を受けていることを重く受け止めております。改めて、少年補導委員会理事会や総会において、丁寧に説明してまいります。

今後の補導活動の在り方につきましては、引き続き少年補導委員会と協議するとともに、関係機関と連携した活動にする必要がございます。

少年補導委員の所管につきましては、本市の現状や、他市町の状況を踏まえて、関係機関と検討してまいります。

以上でございます。

○宮下和也議長

柳谷危機管理担当理事。

○柳谷耕士郎危機管理担当理事（登壇）

私からは、２項目めのうち所管部分についてお答えいたします。

防犯カメラの設置につきましては、子どもたちの安全、安心のため、また地域防犯のために有効なものと認識しております。

これまで兵庫県と本市の補助により地域団体の防犯カメラの設置を支援してきており、現在、通学路等に約1,500台が設置されております。

議員の提案につきましては、公設化の範囲、持たせる機能、設置に要する財源や維持管理など、様々な課題があるものと考えております。

また、本市の防犯カメラ設置補助制度の現状といたしましても、財源となる地域社会活性化基金の減少傾向が続いており、県の補助事業も縮小されてきている一方、今後増大が見込まれる機器本体の更新需要への対応も必要となってまいります。

このため、限られた財源の中ではできる限り現行制度を継続できるよう考えており、引き続き、通学路等の必要性の高い場所への防犯カメラの設置が進むように運用していきたいと考えております。

以上でございます。

○宮下和也議長

柳本建設局長。

○柳本秀一建設局長（登壇）

私からは、３項目めについてお答えいたします。

飾磨中央公園で目指す公園の形や整備等の方針についてでございますが、現在、姫路市公募対象公園施設設置等予定者選定委員会におきまして、公募設置等指針について審議を行っているところでございます。この指針につきましては、本年４月に公表し、公募を開始する予定でございます。

今後のスケジュールといたしましては、当委員会において令和７年９月に事業者を選定し、基本協定等の締結を経た後、令和８年度から整備工事に着手し、令和９年度の供用開始を目指しております。

具体的な方針につきましては、公表前であるため詳細は控えさせていただきますが、これまでのサウンディング調査時に示した再整備方針に基づき指針を策定しており、その中で、カフェ等の公募対象公園施設と広場やトイレなどの特定公園施設について、多世代が集い交流する憩いの場

となるよう、民間事業者の皆様から優れた経営ノウハウやアイデアを生かした魅力ある提案を求めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○宮下和也議長

大前観光経済局長。

○大前　晋観光経済局長（登壇）

私からは、4 項目めについてお答えいたします。

本市のコインロッカーの利用状況でございますが、姫路駅や姫路駅周辺には大中小合わせて 787 個あり、1 年間を通して不足しているのではなく、繁忙期など特定の時期に不足する場合があると認識しております。

適正数につきましては、大中小合わせた比較にはなりますが、例えば金沢駅周辺では約 900 個、奈良駅前や岡山駅周辺では約 750 個設置されており、本市も同程度であると考えております。

次に、手荷物預かりサービスにつきましては、現在、民間事業者により 3 か所運営されており、そのほかにも、コインロッカーの代わりに旅行の荷物などを駅近くのお店の空いているスペースに預けることができるエクボクロークというサービスが全国展開されており、本市でも 4 店舗登録されております。

このため、コインロッカーや手荷物預かり所の充実につきましては、近年、民間事業者等によるコインロッカーの増設や新しいサービスも増えてきているため、今後の動向を注視したいと考えております。

本市といたしましては、姫路へ来られた方が簡単にロッカーなどを見つけられ、まちでの滞在を楽しんでいただけるよう丁寧な案内に努めていきたいと考えており、設置者に対して分かりやすい案内サインづくりを働きかけるとともに、姫路市観光案内所における案内やホームページ、ＳＮＳ等での積極的な情報発信に努め、おもてなしの向上を図ってまいります。

以上でございます。

○宮下和也議長

近藤都市整備担当理事。

○近藤　亨都市整備担当理事（登壇）

私からは、5 項目めについてお答えいたします。

姫路市網干区とたつの市御津町の間で運行しておりました路線バスにつきましては、令和 5 年 4 月にダイヤ見直しなどを行ったものの、利用者の低迷やバス事業者の運転手不足により、令和 6 年 9 月末で休止となった経緯がございます。

公共交通は、市民の日常生活を支える重要な役割を担っておりますが、人口減少や高齢化の進展により、沿線人口の減少や担い手不足などにより、公共交通の維持・存続が深刻化することが予測されております。

交通課題の解決に向けては、それぞれの地域の現状を把握し、移動需要などを分析した上で、的確な将来予測を行い、地域の特性に応じた交通手段の導入が重要であると考えております。

路線バスに代わる新たな移動手段につきましては、デマンド型乗合タクシーなどの選択肢はございますが、導入に際しては、それぞれの地域ごとの移動需要のほか、地域の協力体制や交通事業者との調整など条件を整える必要がございます。

いずれにいたしましても、公共交通空白・不便地域の解消に向けて、地域の移動ニーズの把握や分析に努めるとともに、国においても交通空白解消本部が設置されるなど取組が進められているため、その動向に注視しつつ、地域の輸送資源の活用を含めた最適な移動手段の確保に向けて検討してまいります。

以上でございます。

○宮下和也議長

13 番　神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

それぞれご答弁ありがとうございました。それでは、2 問目に移らせていただきます。

まずは、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング、子どもの学校改革応援プロジェクトについてですけども、今年は初めての試みで2校となりましたが、多分結果から、来年度は希望される学校も増えてくると思います。

対象となる学校の選定方法や金額選定等の基準を明確に定めていただき、各学校が納得されるように説明し、不満の声等が出ないようお願いしたいんですが、再度ご答弁をお願いいたします。

○宮下和也議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長

具体的にはまだ審査基準等は定めておりませんけれども、空き教室のリノベーションに限らず、子どもたちが持っている、学校がこんな空間になったらいいなあというア

イデアを実現できるように、幅広く、また募っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○宮下和也議長

13 番　神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

ありがとうございました。

多くの学校に恵みがあるよう要望いたしまして、次に、中学生のスポーツ・文化芸術活動の今後について、こちらは非常に難しい作業でありますが、スムーズに地域へ展開ができ、中学生の体力、気力、知力が衰えないように仕組みをつくっていただくことを強く要望しておきます。

続きまして、子どもたちを守る補導活動の今後についてですが、少年補導委員の方を街頭補導時に危険から守るには、やはり防犯活動や住みよい地域づくりを推進する危機管理室へ移管を本当に提案したいんですが、どうでしょうか。再度ご答弁をお願いします。

○宮下和也議長

平山教育次長。

○平山智樹教育次長

繰り返しの答弁となりますけれども、少年補導委員会の所管につきましては、本市の現状や今後また町の状況を踏まえまして、関係機関と検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○宮下和也議長

13 番　神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

どうもありがとうございました。前向きに考えていただくことを強く要望しておきます。

子どもたちを犯罪や事故から守るためには、見守りカメラ、必要じゃないかと思うんですけども、費用面とかあるんですけども、こちらのほうも何とかたくさんつけられるように努力をしていていただけるよう強く要望しておきます。

次に、都市公園の今後の方針についてですが、現在ですね、作成に取り組んでおられる公募指針は市としての具体的な整備条件を示したものとなるのでしょうか。

よろしくお願いします。

○宮下和也議長

柳本建設局長。

○柳本秀一建設局長

再整備後の公園に求められる機能や役割を明記し、特定公園施設に関する必須項目を設けるなど、本市が求める具体的な整備条件を示した内容としております。

ただ、条件をつけ過ぎますと民間の自由な発想を阻害するおそれもございますので、その辺りバランスを取りながら、民間事業者の皆様から、本市の意図を反映しつつ創意工夫を凝らした提案をいただけるような公募指針を作成してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○宮下和也議長

13 番　神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

ありがとうございます。

整備に関しては、事業者任せにするのではなく明確な基準を示していただき、いい公園をつくっていただきたいなと思います。強く要望しておきます。

続きまして、コインロッカーの件なんですけども、コインロッカーだけではなく、観光客が姫路に来られ、不便でしたと思われて帰るより、よかったと満足して帰ってもらえるような対応が必要ではないかと思いますが、その辺りも含めて、今後の対応について再度お聞かせください。

○宮下和也議長

大前観光経済局長。

○大前　晋観光経済局長

コインロッカーを含めた観光客へのおもてなしの充実というご質問でございます。

まず、コインロッカーにつきましては、やっぱり駅の中にあってっていうのであったり、バスターミナル、そういうところで見つかりやすいってのがまず一番だと思いますが、今後、繁忙期にコインロッカーや手荷物預かり等が不足するような状況が続くような場合は、民業圧迫にならない範囲で、関係機関とも協議しながら、観光案内所での取扱いであったり、今後整備いたします観光交流センター等での臨時的な扱いなんかも検討してまいりたいと思っております。

また、姫路城の料金改定に伴いまして、コンベンションビューローのほうでも姫路プレミアムプランというようなことも考えて、手荷物預かりであったり快適なサービスの向上に努めてまいりますので、その辺含めて考えていきたいと思います。

以上でございます。

○宮下和也議長

13 番　神頭敬介議員。

○神頭敬介議員

ありがとうございました。よろしくお願いします。

最後になりますが、2問目の最後ですが、網干地区の公共交通・空白不便地域の解消についての2問目です。

姫路市総合交通計画によりますと、市内には網干南西部地区と同じような公共交通空白・不便地域があり、困っている市民が多くおられます。

また、2000年以降の10年間で、ドライバーの高齢化や若者の車離れも顕著になっており、このまま交通空白・不便地域に手をつけずにいますと、高齢者の生活がますます不便になり、車を持たない若者も中心街へ転出し、郊外地域が衰退してしまうのではないかと危惧するところです。

中心街から離れた郊外地域の生活を維持するためには、交通環境の整備が急務となります。

ぜひ、自治会のつながりが強く、何事にも協力的な網干南西部地域で、従来のデマンド型乗合タクシー、あるいはＡＩオンデマンド配車システムを利用したデマンド型乗合タクシーの実証実験を実施していただき、市内の交通空白・不便地域に展開することで、高齢者が生き生きと暮らせ、若者に選ばれる地域づくりをお願いしたいのですが、再度ご答弁をお願いします。

○宮下和也議長

近藤都市整備担当理事。

○近藤　亨都市整備担当理事

デマンド型の乗合タクシーなどの新たな移動手段の導入につきましては、交通事業者の協力が不可欠であると考えております。

まずは、交通事業者と協議調整を行った上で地元の要望をお聞きし、また、国の支援制度などに柔軟に対応できるようにしながら、議員ご指摘のデマンド型乗合タクシーも含めた持続可能な公共交通の導入について検討してまいります。

以上でございます。

○宮下和也議長

以上で、神頭敬介議員の質疑を終了します。